

## 1 児童生徒の学びをサポートするICT活用

## (1) 主体的な学び

**こんな実践**

歌舞伎「勧進帳」を鑑賞する場面で、生徒が、歌舞伎や「勧進帳」の概要を示した動画を電子黒板で見ます。さらに、勧進帳の長唄についてデジタル教科書を使って体験することにより、生徒の歌舞伎に対するイメージが広がり、主体的に歌舞伎のよさを味わおうとする姿が見られる実践です。

実践学校 G中学校

実践学年 2学年

実践時期 12月中旬

題材名 「歌舞伎の特徴を理解してその魅力を味わおう」

学習指導要領との関連：B鑑賞 ア(ウ)、イ(ウ)

## ① 歌舞伎や「勧進帳」の概要を示した動画を電子黒板で見る場面

導入場面で、教師は生徒に歌舞伎の印象について尋ねました。生徒からは、「独特なしゃべり方」「日本の伝統」等の言葉が返ってきました。しかし、まだ生徒は歌舞伎について知らないことが多いようでした。そこで、教師は、歌舞伎の概要や「勧進帳」のあらすじ等を示した動画を見せました。生徒はそれを見て「思ったよりわかりやすい」「面白そう」等と言う姿があり、歌舞伎に対する興味を高めているようでした。

## ② 勧進帳の謡を、電子教科書を使って体験する場面

教師は、勧進帳の中で謡われている長唄に注目するように促し、全体で謡を体験する場面を設けました。生徒は、デジタル教科書に載っている長唄の謡を体験できる示範演奏や、視覚的に音の上がり下がりを示した図形楽譜等を頼りに、長唄を体験しました。「(西洋音楽と違って)音の上がり下がりが激しい」「(フレーズは)長くのびやかだ」等、今まで自分たちが学習してきた西洋音楽の歌い方と比較して多くの発言が出されました。

次時、実際に勧進帳を鑑賞すると、謡の場面では一緒に口ずさむ姿が見られ、最後は「長唄を自分たちでも謡ったから、役者さんの努力や伝えようとしていることが伝わった」「体全体で場面や感情を表すものだと分かった」等の感想が出されました。





### ここがポイント！

- ・鑑賞においては、デジタル教科書や示範演奏等の動画を使い、イメージをもたせながら行うことで、生徒は題材への興味を高め、抵抗なく、その音楽の世界に入っていくことができます。
- ・デジタル教科書の図形楽譜のツールを使うことで、生徒は長唄を体験することができ、既知の音楽と比較したり、長唄の特徴をとらえたり学びを深めることができます。

### まとめ

デジタル教科書に載っている示範演奏や、視覚的に音の上がり下がりを示した図形楽譜などを見て実際に長唄を体験することで、よりイメージを広げ主体的に歌舞伎のよさを味わうことができます。